

【特集企画】

「老化制御への挑戦 ～食品成分・漢方薬の科学的根拠～」

老化は万人に起こる不可逆的な生物学的現象である。これまでの研究により、老化には遺伝的要因に加えて環境的要因が関わるということが明らかにされてきた。そのため老化は、「抗うことのできない現象」から、「促進させる要因を制御し、進行を遅らせることのできる対象」へと、捉え方が変わってきているように思われる。

健康でいられる時間をできるだけ長くしたいと、願うのはごく自然なことである。その証拠として、世の中に様々な健康法や健康食品が出回っており、日々広告やメディアを賑わせている。一方そのような商品の中には、十分な検証を経て製品化に至ったものばかりでなく、科学的根拠に乏しいものも含まれており、玉石混交であることは否定できない。

そこで本特集では、日々摂取する食品等に含まれる物質・成分が老化を制御するしくみについて、基礎研究を専門とされる4人の先生に、最近の知見をご提供いただいた。石神昭人先生には、「老化」について概説頂くとともに、ご専門であるビタミンCと老化の関係についてご紹介頂いた。海野けい子先生には、緑茶成分（カテキン、テアニン、アルギニン）による脳機能への作用について、動物実験に加えてヒトを対象とした研究をご紹介頂いた。高橋真由美先生には、水溶性コエンザイム Q10 による運動機能の改善作用とその機序（脳ミトコンドリア機能）についてご執筆頂いた。孫輔卿先生には、東洋医学における老化の捉え方をご紹介頂くとともに、朝鮮人參の有効成分（Ginsenoside Rb1）の血管機能に対する作用を中心にご紹介頂いた。

本特集企画が、基礎研究により集積された知見は、日常生活をより豊かにするのに役立っていることを再認識させてくれるきっかけになることを願っております。

編集委員

渡辺 信博

三浦 ゆり